

2 0 2 3 年度

事業計画書

自 2 0 2 3 年 4 月 1 日

至 2 0 2 4 年 3 月 3 1 日

2023 年度 事業計画書

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大から 3 年が過ぎ、ようやく通常の生活を取り戻しつつある中、不安定な国際状況やエネルギー・資源・穀物等の諸問題など政治・経済ともに大きな変化を迎えています。

プラントメンテナンス業界では、今年度はマイナーな定修年ではありますが、会員各社ともに業務量は豊富に抱えています。

ただ、建設資機材の高騰・半導体不足など先が見えない環境の中、ロシアとウクライナの問題や中国の動向等は、会員会社の海外事業にも大きな影響を受ける懸念があり、予断を許しません。しかし、国内の産業設備の高経年化は否応なく進んでおり、メンテナンス業に対するニーズは縮小することなく、増々増加するものと思われます。

コロナ禍の最中であっても、スマート保安に関する技術革新によりメンテナンス業界は大きく変化してきました。

我が国の産業を支える生産設備に対し、日常メンテナンスや定期修理工事を安全・着実に完工させることが、我々の社会的責任を果たすものと考え取り組んでまいります。

プラントメンテナンス業界にとっては、このようにメンテナンスの社会的重要性は増大している中、各委員会活動では、昨今のテーマである人材の確保・働き方改革・スマート保安等の様々な課題・問題について関係官庁・諸団体とともに取り組み、さらにはフランジ締結技能講習制度についても、会員内外に発信していきます。

2. 本年度の主な施策取り組み

プラントメンテナンス業を取り巻く以下の諸課題に積極的に取り組んでまいります。

- ① 業界全体としての人材確保、長時間労働、人材の育成等の情報を含め会員企業に有益な関連情報を収集、発信します。
- ② 他関連団体・教育機関と情報交流・提供を進めます。
- ③ プラントメンテナンス業および工業会の社会的な認知度アップに取り組みます。
- ④ 業界に関する法規上の問題抽出と会員企業への関連情報の提供に努めます。
- ⑤ プラントメンテナンス業に応用できる最新技術を調査、発掘し、会員企業への情報提供を目指します。
- ⑥ フランジ締結技能講習制度の認知度アップとさらなる充実。

3. 事業内容

3-1. 総務委員会

理事会の諮問に応えながら工業会の方向付け等の具体的な仕組みづくりを行うと共に、理事会の付議事項の事前審議を行います。

3-2. 企画推進委員会

総務委員会及び各委員会と連携して工業会を取巻く問題点の抽出、活動内容の検討・調整を行います。2023 年度は、以下に示す項目を推進します。

1. フランジ締結技能講習制度の維持管理とブラッシュアップ。
2. 人材不足対策（西工大・新居浜高専・大分地区学校との連携と各種調査等）。
3. 「スマート保安官民協議会」、経済産業省他関係省庁からの参画・検討依頼事項への対応による情報収集と会員会社への発信。

3-3. 調査統計委員会

調査統計委員会の基本活動として次の通り行います。

1. 工業会会員企業概要 1 年調査を実施します。
2. 人材不足、長時間労働、働き方改革等現状の問題点について引き続き検討、調査します。

3-4. 広報活動委員会

工業会活動 PR のため、次の 3 点の基本活動を行います。

1. 会報内容の充実
 - ・各委員会活動報告
 - ・メンテナンスに関する技術や特集の掲載
 - ・新たな特集記事の掲載
2. ホームページのリニューアル
ホームページの全面リニューアル、スマホ・タブレット対応を 2023 年度前半に実施。
3. プラントメンテナンスショーに出展する会員企業の取材など。
 - ・2023 年度プラントメンテナンスショーは、東京（7 月）で開催予定。当会は、特別協賛として出展予定。（東京 ビッグサイト東展示棟）
 - ・日本能率協会との連携によるメンテショーの充実。

3-5. 教育研修委員会

メンテナンスの高度化、高付加価値化を目指すための研修会などの企画、学生への PR 活動などは今後も継続して行って参ります。

1. 研修会の企画・運営
 - (1) 講演会（通常総会時）
 - (2) 工場見学
2. 大学・高専講座に対する支援
 - ・西日本工業大学の講座の進め方、講義担当各社への支援を行います。
 - ・新居浜高専特別課程への工業会関与と講座担当各社への支援を行います。
 - ・大分地区学校との新たな提携を検討します。

3-6. 法令・規格委員会

プラントメンテナンス業の課題に関連する各省庁の審議会等の重要報告について継続調査します。また、定修時の長時間労働の実態調査に基づいて、工業会内の良好事例の共有、お客様およびお客様の業界団体への継続的な働きかけや、一部アプリケーションの共通化などを視野に入れた検討について各委員会と連携し進めます。特に ICT の活用やスマート保安について取り組み、長時間労働に関して石油化学工業協会が事務局として開催している定修会議等の団体との意見交換および理解活動を進めてまいります。

3-7. 評価提案委員会

前年度に続き、次の 2 点について、人材の確保・育成へ向けた取り組みを行います。

1. 「工業会表彰制度」の制度定着化
 - ①制度の問題点の把握と対応策の検討
 - ②評価方法の検討
2. 「人材確保のための PR 方法」の具体策として、プラントメンテナンス業界ガイドブック活用の推進
 - ①新たに業界（プラントとは、メンテナンスとは）および 6 職種（メンテナンス監督、製缶、足場鷹、機械加工、計装保全、非破壊検査）の紹介シートについて発行を行います。

3-8. 技術研究委員会

昨年、実施した技術研究委員会のアンケート結果に基づき、情報収集もしくは研究するテーマを大きく 4 つ分け、それぞれについて委員会で展開していきます。委員会で取上げるテーマや内容は事前に開示し会員会社が興味のあるテーマについては会員会社も Web 参加できるようにしていきます。委員会で取り上げられた技術及び情報内容は工業会ホームページに公開していきます。また、スマート保安については官公庁の会合にも積極的に参加し情報を収集していきます。